

## 各論3 連携について

山縣眼科医院 山縣 祥隆

### 1. 視覚障害リハビリテーション（視覚リハ）、ロービジョンケア（LC）における多職種間連携の重要性について

そもそもLCとは、障害程度が軽い時期に、眼科を中心とした病院の中で始められる視覚リハを意味するが、医療機関では行えないケア部分については、その必要性が生じた時点で速やかに、障害福祉を担当する行政機関や視覚リハ関連施設、各種団体、ボランティアなどを紹介し、福祉サービスや専門的な訓練を受けさせなければならない。その際、平素より眼科医と他の職種が親密な交流を持っていれば、当事者の視覚リハも効率的に進む。

### 2. 連携のポイントはふたつ

ポイントは眼科医が主導で連携を進めること、各職種が共通のツールを用いること、である。

### 3. 兵庫県において各職種が使用している共通のツールについて

#### 1) 兵庫県ロービジョン講習会

県内で定期的に行われている講習会で、LCに必要な視覚補助具に関する講習を行うと共に、毎回、行政機関や視覚リハ関連施設、各種団体、ボランティアなどの代表者を招いて講演を行っている。

#### 2) 兵庫県ロービジョンマップ

兵庫県内で視覚補助具の選定を行っている医療機関と、選定できる視覚補助具をまとめたもので、眼科医のみならず県内の視覚障害に関連した行政機関や視覚リハ施設、団体、ボランティアなどに配布し、また兵庫県眼科医会のホームページからもダウンロードができるようになっている。

#### 3) 兵庫県版 SmartSight<sup>®</sup>「つばさ」

視覚リハ、LCが必要であるにも関わらず、それらを知らない当事者に視覚リハ、LCを紹介する目的で作成されたリーフレットで、現在、他の都道府県でも作成され利用されるようになってきている。このリーフレットは地域の視覚リハ、LCの普及にも役立つ上、作成過程で眼科医とそれ以外の多職種が共に議論することによって、連携が生まれる。